

Contents

- つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～をご紹介します！
(つづら棚田、広内・上原地区の棚田、鹿里地区の棚田)
- 麦の部分浅耕一工程は種の実演会が開催されました



つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～をご紹介します！ (つづら棚田、広内・上原地区の棚田、鹿里地区の棚田)

本年2月に福岡県は5つの地区がつなぐ棚田遺産に認定されました。そのうち、関係者の皆様と意見交換を行った地区の取組をご紹介します！

つづら棚田(うきは市)



(写真：うきは市様よりご提供)

つづら棚田

面積：9.88 ha

棚田を守る
主な活動団体

- ・ つづら棚田保全協議会
- ・ つづら棚田を守る会
2006年に発足。主に地区外の方約40名で構成。
- ・ 棚田まなび隊
当地区を含む集落の調査を行っていた大学のOBを中心に結成。現在はNPO法人の取組の一環として活動。



どんな取組？

つづら棚田保全協議会では農泊や棚田オーナー制度に取り組んでいます。また、つづら棚田を守る会は、引き受け手のいない田の保全管理として水稻の栽培等を行っています。つづら棚田の耕作田の約35%を担い(令和2年度)、ボランティアの力も借りながら栽培し、収穫した米を道の駅で販売しています。棚田まなび隊は、水稻栽培の体験として田起しから脱穀まで年間12回以上活動するほか、森林セラピーや生き物調査、竹工作のイベント等にも取り組んでいます。昨年度の参加者は約50名で、大学や企業との連携も進め、隊員の募集を行っています。

お話を聞かせていただき、ありがとうございました！

課題・展望は？

つづら棚田を守る会は高齢化が進み、活動資金の面でも活動の継続が課題です。「住む人・守る人がいるからこの素晴らしい景観を見ることができる」—この活動に誇りをもてるようPRしたり、収穫したお米を価値に見合った価格で販売する必要性を感じています。また、農業生産のみで棚田を維持することは難しく、他事業の展開や外部人材との交流の在り方に関する検証も必要と考えています。



意見交換の様子



棚田と彼岸花 (写真：うきは市様よりご提供)

広内・上原地区の棚田（八女市）



(写真：八女市様よりご提供)



(写真：八女市様よりご提供)

中山間地域等直接支払制度を活用しながら、農業生産、農地保全、景観保全を行うほか、**NPO法人と連携し、年数回、草刈り等の農地保全活動**を実施しています。

以前は景観維持の活動も活発でしたが、現在の棚田の作付け割合は約1割で、**水害による谷の崩壊や高齢化等により耕作しない農地が急激に増加**しました。状況は厳しいですが、作付けできない農地についてもなんとか保全しています。

広内・上原地区の棚田

面積：5 ha

棚田を守る主な活動団体等

- ・ 中山間地域耳納集落協定
- ・ 広内・上原地区棚田保存実行委員会
- ・ NPO法人がんばりよるよ星野村



鹿里地区の棚田（八女市）

棚田の作付け割合は約7割で、主に農地所有者が水稻を栽培しています。自家消費の他、縁故米として販売し、高評価です。

今年は3年ぶりに**彼岸花まつりを開催してTV番組を通じたPR**を行ったり、初めて**移住者の募集**も行いました。高齢化が進む中、人の受け入れにスピード感をもって取り組む必要があります。活用されていない家屋や土地を受け皿に進めていきたいと考えています。



(写真：八女市様よりご提供)

鹿里地区の棚田

面積：5 ha

棚田を守る主な活動団体等

- ・ 中山間鹿里集落協定
- ・ 鹿里ふるさと会



(写真：八女市様よりご提供)

麦の部分浅耕一工程は種*の実演会が開催されました

JA福岡大城みどりの食料システム戦略推進協議会主催により、11月17日に開催されました。栽培時のCO2排出削減や省力化につながる当技術について、は種深度の調整等の説明が行われました。

* は種部分を浅く耕起すると同時には種する技術。トラクタのロータリ爪のは種部分のみをカルチ爪にすることで浅く耕起される。荒起し

を行わず、降雨後も速やかに種がで、適期は種が可能。大豆の実演会（6月）はこちら → <https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/katudou.html#a220628> 普及指導員による説明の様子



【お問合せ先】

九州農政局福岡県拠点地方参事官室
〒812-0018 福岡県福岡市博多区住吉3-17-21 TEL 092-281-8261（代表）
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/index.html>

